



このは

Kumamoto

Neuro

Hospital



写真の model リハビリテーション課 理学療法士 石原 優子 / 入職4年目

マイブーム：Surfing を去年の夏から始めました。宮崎の日向に多い時で月に2～3回行っています。海に行くと気分が落ち着いてとても気持ちがいいです。

仕事への意気込み：脳血管疾患の治療は患者様ごとに多種多様です。それぞれに合ったリハビリを提供するために、スタッフ間で相談しながら、様々な工夫を凝らして日々頑張っています。病気になられた時はとても不安だと思いますが、患者様に寄り添えるセラピストとして日々精進していこうと思います。

Contents

特集 ミニ脳カフェ 「特発性正常圧水頭症について」

- ・ 緑の下のコメディカル
 - ・ くまのう相談室
 - ・ 地域とのつながり
 - ・ がまだスポーツ
 - ・ 元気の源
- 「特発性正常圧水頭症のリハビリについて」
 - 「熊本市の子どもの医療費助成制度の変更について」
 - 「にじいろカフェに参加しました」
 - 「いちごマラソンに挑戦」
 - 「夏の行事食 ～七夕～」

特発性正常圧水頭症 (iNPH) について



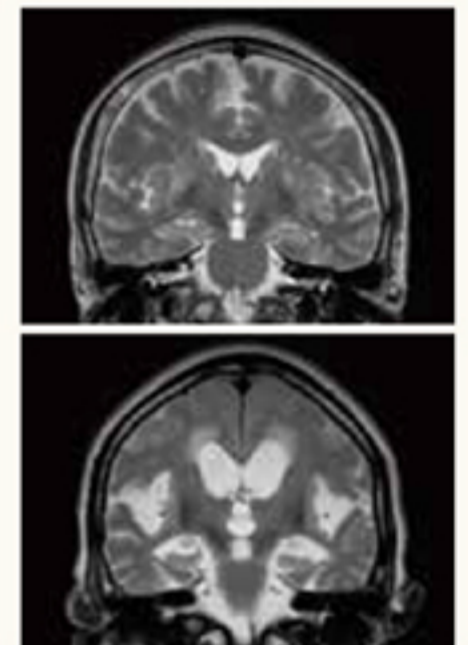
特発性正常圧水頭症とはどのような病気ですか？

ウチの80歳になるおじいちゃんが、この1年ぐらい前からチョコチョコとした小刻みな、そして膝が挙がらない歩きになってよくこけるようになったと家族が気づきます。またオシッコもよく間に合わずにお漏らしをすることが多くなり、さっき言ったことを何度も聞き直したり、朝ごはんはとくに済んだのにまだ食べてないと言います。このような症状があったら、正常圧水頭症を考えなければいけません。

脳の内外にあるくも膜下腔という場所には、脳脊髄液という無色透明な液体が流れています。その流れが悪くなって滞り、脳室という脳の中にある部屋に脳脊髄液が溜まって膨らんだ状態のことを水頭症と言い、流れが悪くなる原因が分からないものを、特に特発性正常圧水頭症(iNPH)と言います。脳室が膨らみ脳を圧迫する結果、下肢を動かす脳の領域が影響を受けて歩行障害、オシッコを調節する部分が障害されて尿失禁(お漏らし)、また認知症症状が出現します。それらは、主に前頭葉の症状で水頭症の影響が最も出やすい脳の部分です。iNPHの患者さんは、疫学的な調査で65歳以上の高齢者の約100人に1人おられると言います。決してまれな疾患ではないことが判ります。

診断方法について教えてください。

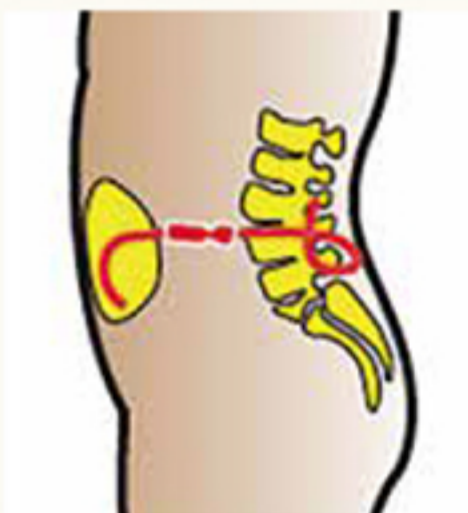
まずはCTやMRIを撮像し、脳室の拡大など、水頭症特有の画像所見の有無を確認します。症状と画像診断の結果から水頭症が疑われた場合、次にタップテストを行います。タップテストとは、腰の脊柱管から脳脊髄液を少量排除し、それにより歩行状態が改善するかどうかを確認するテストです。局所麻酔を行った上で腰に細い針を刺し、脳脊髄液を約30mlほど採取します。脳脊髄液を抜く前と後で、ある距離を歩くのに時間と歩数がどのくらいかかるかを比較評価し、歩行状態の改善が認められれば治療の適応になります。また、その他の検査としては脳脊髄液の流れの状態を把握することを目的として、脳槽造影CT検査を行う場合があります。



上段：正常な脳の断面
下段：水頭症患者の脳の断面

どのような治療法がありますか？

正常圧水頭症は手術で改善しうる病気です。滞った脳脊髄液を排出するためのチューブを体内に設置する髄液シャント術を行います。当院では、頭をさわるのではなく、腰とお腹の皮膚を小切開する腰椎-腹腔シャント(L-Pシャント)術を行っています。手術時間は約40分かかります。その手術で歩行障害、尿失禁、認知症が改善されることが判ってきました。日常動作を改善させることで、より有意義な日常生活を送るために有効な治療です。当院では、年間20~25例程の手術をしております。但し、腰椎脊柱管狭窄症の方は、脳室-腹腔シャント(V-Pシャント)術を余儀なくされる場合もあります。



手術後の生活について教えてください。

当院では、術後約3週間入院して頂き、その間歩行改善のためにリハビリを行います。退院後も定期的に外来を受診して頂き、経過観察を行います。症状の変化に合わせて脳脊髄液の排出量を適切にコントロールすることで、長期的に健康的な生活を送れるようご支援してまいります。

井上 信博 (いのうえ のぶひろ) 【脳神経外科専門医】

経歴 昭和57年3月 獨協医科大学卒業
昭和59年4月 熊本大学医学部大学院 医学研究科入学
資格 昭和63年3月 同上卒業 医学博士取得
平成2年7月 日本脳神経外科学会専門医取得
平成16年3月 日本脳卒中学会専門医取得



緑の下のコメディカル

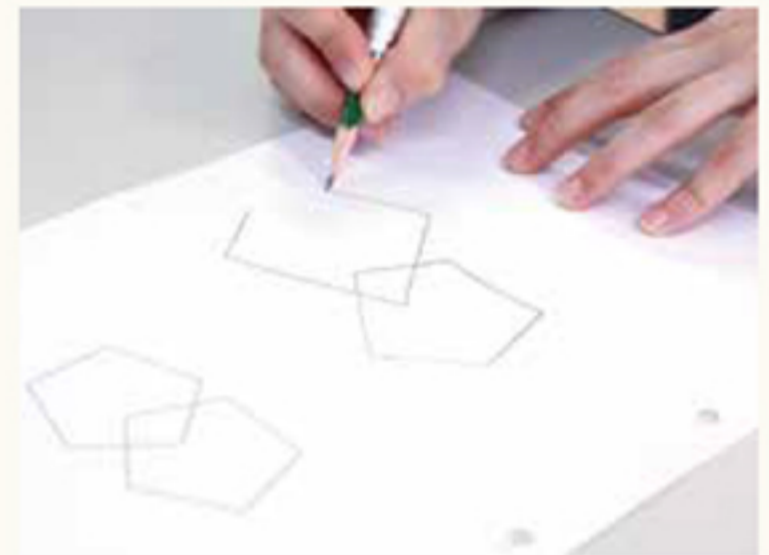
特発性正常圧水頭症のリハビリについて



正常圧水頭症の患者さまへ行うリハビリには大きく分けて、手術での治療が有効かどうかを検討する為の”症状の評価”と、回復に向けた”手術後のリハビリ”があります。

症状の評価では、歩行と認知面を評価します。歩行評価では、椅子から立ち上がり3m歩いて椅子に戻って座るまでの時間と歩数を計測するTUG(Timed up to go test)と、10m真っ直ぐ歩くのにかかる時間と歩数の計測を行います。認知面の評価では、日付や場所等の記憶に関する聞き取り、計算、書字、模写等を行うことで認知障害の総合的な評価が可能なMMSE (mini-mental state examination)を行います。タップテストの前後で各評価を比較し、症状の改善が認められれば手術適応となります。適切な評価を行うために、検査内容をしっかり説明し、本来の能力をきちんと評価できるように努めています。

手術後のリハビリでは、さらに細かく筋力・関節の動き・バランス・日常生活動作の状態を確認した上でプログラムを立案し、それぞれの患者様に合ったリハビリを提供していきます。毎日リハビリを行うことはこれまで運動経験やリハビリ経験のない患者様にとっては大変かもしれませんが、適度な運動と食事、規則正しい生活リズムで過ごすことによって、リハビリの効果がより早く表れます。また、リハビリでは患者様とご家族様の希望や退院後の理想の生活スタイルをお伺いし、目標を共有して意欲的にリハビリに取り組めるよう心掛けています。



くまのう相談室

熊本市の子ども医療費助成制度の変更について

昨年まで熊本市の子ども医療費助成は小学校3年生までが対象でしたが、平成30年1月1日診療分より、対象が中学3年生まで拡充されました。小学3年生以下では、外来診療や調剤薬局での負担上限額がやや増加していますが、入院費に関しては一律無償になりました。助成制度の利用には市が発行するひまわりカードが必要です(お持ちでない場合でも、区役所等にて後から払い戻しの手続きができます。)病院を受診された際には、受付にてひまわりカードと健康保険証の提示をお願いします。

◎平成30年1月1日からの自己負担額

		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
入院	新	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	旧	0	0	0	500	500	500	500	500	500	500	3割負担					
外来	新	0	0	0	700	700	700	700	700	700	700	1,200					
	旧	0	0	0	500	500	500	500	500	500	500	3割負担					
調剤薬局	新	0	0	0	700	700	700	700	700	700	700	1,200					
	旧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3割負担					

*歯医者など、歯科の医療費に関しては内容が異なります。

地域との繋がり

「にじいろカフェ」に参加しました！



3月31日(土) 特別養護老人ホーム「力合つくし庵」にて「にじいろカフェ」が開催されました。様々な催しやワークショップが行われた中、当院の冬田院長が「みんなで早期発見 頭の病気と治療法」をテーマに講演を行い、もの忘れと認知症の違いや、脳卒中の原因と症状、認知症の予防のポイントなどについてお話させていただきました。また、講演会終了後には、当院で使用している救急車の見学会を実施しました。参加者の方々は、実際にストレッチャーを持ってみたり、運転席に座ってみたりと、

小さな子どもさんから大人の方まで楽しまれていました。

当院では広報活動の一環として、地域の方々や医療・介護関係の事業所の皆様への情報提供を目的とした講演活動を「脳カフェ」と題して行っております。今後も脳カフェを通じて、皆様の健康増進や病気の早期発見のお役に立てれば幸いです。



がまだスポーツ

いちごマラソンに挑戦

2月25日に玉名市横島町で開催されました「いちごマラソン」にリハビリのスタッフと冬田院長が参加しました。のんびり2.5km、3km(小学生)、5km、10km、ハーフマラソンから種目を選択でき、10kmに挑戦しました。結果は遅いも速いも全員完走することが出来ました。選手間の応援や沿道からの声援があり、それらが力になったのだと感じています。次の日身体は……。やはり運動は継続が必要です！

これからもスポーツを通じてスタッフ間の親睦を深めていきたいです。



元気の源

夏の行事食 ～七夕～

天の川や織姫の織る糸に見立てられ、千年以上も前から七夕の行事食として食べられてきたそうめん。節句にその季節のものをいただいて、無病息災を願う習慣はたくさんありますが、七夕のそうめんもその一つ。喉ごしが良くて食べやすいそうめんは暑さで食欲が減退する時期にぴったりのメニューです。



編集後記

今回から、コンテンツの一つ一つにタイトルをつけました。医師から病気について解説をいただく「ミニ脳カフェ」。これは、当院が地域の支援センターに出向いたり、イベントに参加した際に行っている情報提供活動「脳カフェ」になぞらえてつけました。また、ミニ脳カフェの内容に併せて、看護やリハビリ、検査などのコメディカルスタッフの関わりを紹介するコンテンツとして「緑の下のコメディカル」を設けました。その他のコンテンツにも、皆様が内容を読みたくて頂けるようなタイトルを考え選びました。今後は、内容を適宜変更しながら、より皆様に当院の取り組みをお伝えしていける広報誌を作っていきたいと考えています。



医療法人 熊愛会 (ゆうあいかい)
熊本脳神経外科病院

〒860-0811 熊本市中央区本荘6丁目1-21

Tel.096-372-3911 Fax.096-362-5135

E-mail:info@knh.co.jp

http://www.knh.co.jp 詳しい内容はホームページをご覧ください。

